

こどもの支援に関する課題整理票

区分	現状・課題	既存の取組・支援等	必要な取組の方向性	部会での直接的な取組	部会以外での取組	優先順位(案)			
						高	中	低	
乳児期～ 幼児期 (0～5歳)	<ul style="list-style-type: none"> ●わたしのきろくの活用方法が把握されていない ・配布後のフォローがほとんど実施されていない。 ・保護者の記入項目が多い。 ・時代に即したツールの見直しが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども発達支援センターで配布。 ・支援機関から受け取った支援計画等をファイリングするものとしての活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしのきろく」の活用について、支援者への周知 ・こども家庭センターとの現状の共有 ・母子健康手帳アプリ等の活用状況の確認 ・「わたしのきろく」配布後のフォロー、利用後の意見の聞き取り 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●支援者の力量、情報量による支援の差がある ●支援者とのつながりの継続、役割分担 ・支援者の力量の差から必要な時に必要な情報が得られない現状がある。支援者の介入がスポット的(健診等)であり、継続したつながりがない。 ・支援者同士の横のつながりを作りたいが、個人情報管理がそれぞれの機関によって異なるため連携の難しさを感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師:健康管理、成長・発達フォロー、子育て不安等 ・相談支援専門員:サービスの利用調整 ・こども発達支援センター:発達相談、療育支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者同士の横のつながりの構築 ・支援者同士のお互いの役割の理解 ・複数の職種を参集し、ケースを通じた研修会の開催【再掲】 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●発達に課題のあるお子さんへの支援の在り方 ・保護者にとって子どもの発達特性への理解や障害受容が難しく、支援者もそれを促すことが難しい。 ・保護者や地域の支援者に対してこども発達支援センターの仕組みや役割が十分に周知されていない。 ・支援者自身が子どもの支援について悩むことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングの実施 ・こども発達支援センターでの発達相談や保護者の不安への寄り添い、子どもの支援の必要性の見極めの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の職種を参集し、ケースを通じた研修会の開催【再掲】 ・保護者への気付きの促しに向けた支援者の力量形成 ・こども発達支援センターの役割の明確化及び支援者への周知 ・子どもの成長に合わせた支援の組み立てに向けた支援者の力量形成 						
学齢期～ 移行期 (6～18歳)	<ul style="list-style-type: none"> ●適切かつ均一なサービス利用が難しい ・教育現場と地域の支援者とで、放課後等デイサービスの現状等を共有しきれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特別支援コーディネーター教諭対象に放デイの説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場と福祉サービスについて共通認識を持つ機会を設ける ・複数の職種を参集し、ケースを通じた研修会の開催【再掲】 ・学校教育課との現状の共有 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達に伴い、サービスの利用継続の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長によってはサービス利用を終了する場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の職種を参集し、ケースを通じた研修会の開催【再掲】 ・子どもの成長発達に伴うサービスの必要性の見極め ・子どもの成長に合わせた支援の組み立てに向けた支援者の力量形成 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用定員が一杯の状態があり、希望した通りのサービス利用(事業所、利用日数)が叶わない現状がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ可能な範囲で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の意見の聴取 ・放課後等デイサービス事業所の課題の整理 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●放課後等デイサービスに求めるものが多様化してきている ・サービス利用に対するニーズが多様化(障害特性、保護者の就労保障、預かりニーズ、不登校等)しており、それに十分に応じることが難しくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス調整だけでなく相談(保護者の子どもとの関わり方、家庭の悩み事等)も、相談支援専門員が多く請け負っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員のフォローとしての相談先や児童に関する発達を踏まえた研修の実施 ・複数の職種を参集し、ケースを通じた研修会の開催【再掲】 ・市の相談体制の整理、明確化 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの居場所や過ごし場の現状が把握されていない ・特別支援学校に通う子の保護者に対する十分な就労保障が行われていない。 ・サービス提供が可能な地域に差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブで対応が難しい場合、放課後等デイサービスの利用を進められることが多い。 ・特に13区については、保護者の希望によっては遠方まで足を運んで事業所利用をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要なお子さんの居場所の選択肢の拡大 ・子どもの居場所に関する地域の情報の収集 ・子どもの居場所づくりの検討 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生年齢相当の進路に関する相談先が明確でない ・本人にとって適切な相談先の整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の居場所Fit、若者サポートステーション、こども家庭センター、すこやかなくらし支援室等が必要に応じて相談に応じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校在学中に本人の特性にあわせた進路相談が行えるような相談体制の構築 ・市の相談窓口(こども家庭センター、すこやかなくらし支援室)の明確化 ・市の相談体制の整理、明確化【再掲】 						
<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学校高等部の進路決定までの流れが不明確 ・支援者の役割分担が不十分 ・教育現場に対して、福祉サービスの現状や利用に向けた流れを十分に伝えきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所合同説明会の実施 ・保護者向けの福祉サービス説明会に福祉課が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援卒後の進路決定の流れについて整理が必要。(R7.10月スタートの就労選択支援も見据えて) ・学校と支援者で進路選択に向けた動きの確認 							

こどもの支援に関する課題整理票

区分	現状・課題	既存の取組・支援等	必要な取組の方向性	部会での直接的な取組	部会以外での取組	優先順位(案)			
						高	中	低	
共通	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の養育力が低い ・保護者が子どもの状態を適切に受け止め切れていない。 ・家庭で担うべきものもサービスに頼りすぎている(保護者の自立性を促すことが必要)。 ・子どもや家庭のことを相談できる機会、機関がない⇔行政で提供する学習会等の機会とのミスマッチ ・既存の団体とのミスマッチ ・どこに相談したら良いか分からない。 ・医療的ケア児のハンドブック、子育てハンドブックが十分に活用されていない、更新されていない。 ⇒相談支援専門員への負担増※相談支援専門員の力量にも左右される(子育ての専門的研修を受けていない) ・保護者世代の移り変わりによるニーズの洗い出しが必要。 ・支援者が子どもへの支援に注力してしまい、保護者が取り残されてしまっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が子育ての魅力に気付けるような働きかけ。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●育児支援が出来る居宅介護ヘルパーの不足 ・ヘルパーの利用希望は多いが、ヘルパー調整が難しい。 ・育児支援を担ってくれる事業所が限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容…入浴サポート等※主に保護者の養育力のフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートの活用。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の質の向上に係る取組 ・国が示す児童発達支援センターの役割が上越市で確立されていないため、放課後等デイサービスなどの職員の質の向上に係る全市的な取り組みがなく、各事業所任せとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達事業所に対する研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・放デイ事業所対象の研修、相談員のスキルアップの研修が必要 ⇒児童発達に関する研修会の企画 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭のサポートを担う機関が曖昧 								
	<ul style="list-style-type: none"> ●医療的ケア児・者への障害福祉サービス ※R4協議会 重心・医療ケア部会より ・保護者等の通院やレスパイトのための預かりの場の不足 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等の就労やレスパイトを支える仕組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な預かり支援の拡充を検討 	●				
	<ul style="list-style-type: none"> ●医療的ケア児・者に係る関係機関の連携 ※R4協議会 重心・医療ケア部会より ・市内医療機関と関係機関との情報共有、連携ツールの不足 ・訪問看護と関係機関との情報共有、連携ツールの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしのきろく」の作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児に特化したハンドブックの作成(R4年度実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしのきろく」と合わせた、ハンドブックの配布 ・支援者が安心して支援できる医療的ケア児者についての支援シートの作成 	●				
	<ul style="list-style-type: none"> ●医療的ケア児・者に係る市の情報収集 ※R4協議会 重心・医療ケア部会より ・対象者の把握、フォロー体制の充実、ニーズの把握が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度部会において実態調査の実績あり ・健康づくり推進課及びすこやかで、18歳未満の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の把握、フォロー体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかなくらし包括支援センターと健康づくり推進課が実施している18歳未満の情報収集の徹底 	●				